

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470600248		
法人名	社会福祉法人 白石陽光園		
事業所名	共生型グループホーム ながさか	ユニット名	かわほたるの家
所在地	宮城県白石市福岡長袋字永坂1		
自己評価作成日	平成22年10月	日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年6月からオープンしており、日本調なデザインで木造であるため、とてもやわらかく、和んだ空間になっている。また、建物自体がかなり大きく作られており、車椅子利用の方がいても、余裕ですれ違うことが出来る広さである。利用されている方も、健康面に不安を抱えたかたでも、専属に看護師が配置されているため、安心した生活が営むことが出来る。毎月2～3度の行事のたのしみ、また日々の買い物、散歩、調理など、利用者の方が本人本意で生活できるよう心がけており、家族のような雰囲気の中で生活を行い、入浴も希望者がいれば毎日行っている。
本人本位を大切にしながらも、楽しく、家族のような生活をしてもらうよう心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年11月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蛸が住む町に構えたホーム「やまほたる」と今年6月に開設した「かわほたる」2ユニットは共生型グループホームで年齢層に幅があり、お互い入居者同志が支えあい生活している。入居者のこれまでの生活様式に限りなく近づけゆったりとした木造作りで利用料も安く設定されていることが特徴である。地域との交流も定着し、目標達成計画に掲げた避難訓練は地域住民の協力で実施することができ、看取りに関する準備も進められていた。職員の意見が反映され、楽しく働きやすい職場なのでより良いサービスに心掛けて入居者の思いを引き出し、その人らしい生きがいとなる支援をしていきたいと満面の笑顔で職員は話していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム ながさか)「ユニット名かわほたるの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ながさかは年をとっても、障害があっても、住み慣れた地域ですみ続けていきたいという思いを大切にするという理念を持っており、実践でもこの理念が根底にあることを意識しスタッフがケアしている。	外部評価を期に理念を振り返り「その人らしい生きがいを大切に」人なりに考えるよう会議でも話し合いを持ち、入居者一人ひとりの状況に応じた支援を心掛け、職員の意識統一を図り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は地区の班長を行い地域との交流を深めている、また自治会や町内会に参加しており、春は春祭り、夏は盆踊りなどに参加し、ラジオ体操などもグループホームの敷地内で行っており、地域との交流に力を注いでいる。	広い敷地を町内に開放し、子供会のラジオ体操、学校帰りに立ち寄り、夏祭りの会場、空建物を町内会の会議等に提供している。隣近所の連携も良く協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から防災訓練を地域の方々に参加していただき、一緒に訓練することにより地域の方々が利用者さんの理解ができるよう努めた、また夏に納涼会開催し認知症高齢者の理解を深めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、参加メンバーから質問などの聞きやすい雰囲気作りに努め、評価機関からの結果を行っており、去年は3回しか出来なかったため、今年は6回運営推進委員会を行うよう努めている(11月までには4回行っている)	2ヶ月に1回開催し、行政はその都度参加、他に町内会長、民生委員、地域住民、家族代表等がメンバーである。避難訓練にまつわる話や、祭りの在り方等、双方向的に活発に意見が出され、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員入っていただき理解と支援をいただいている、またこちら側で困ったり相談がある場合はすぐに相談できるよう協力関係は築けている。また地域ケア会議に委員として参加し連携をとっている	市主催の地域ケア会議があり、条例改正、困難ケースの事例等の情報を得、市との連携も取れている。認知症ケアについて、地区に充分理解されていない事もあり、地区に向けた研修を検討し、取り組んで頂きたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中のカギの施錠はしていなく、利用者さんが一人で外へ出てもその本人の傾向をつかんで対応している、近隣にももしも見かけたら連絡がもらえるようにしてある。拘束における弊害についてはスタッフ全員に理解させていくよう努めていく	主旨を理解し、日中は施錠していない。共生型であり、重度の方が入所した際ペット柵対応であったが、職員間で話し合い、見守りを徹底し廃止する等職員の意識も高まっている。散歩する入居者の為、地域にも協力を呼び掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待防止の話をOJTのように指導し、防止の徹底に心がけている。また身体高速についても、それによる弊害についてはスタッフ全員に理解していくよう努めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等があれば積極的にスタッフを参加させており、また管理者自身がカンファレンスで説明している、これからもっと力をいれていくことにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は運営規定、入居契約書、重要事項説明書を書面でみて説明してもらいながら確認し納得していただくようにしている。また利用者、家族の疑問・質問に対しても真摯に対応し理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をもうけ、訪問時には話を聞く等して意見・要望を聞いている、それをすぐにカンファレンスにかけスタッフと協議し対応している。しかし、不満や苦情は言い難い部分もあり把握しきれていない可能性もある	面会時に呼びとめて日常の様子を話す等話しやすい環境づくりや行事参加の呼びかけをしているが、家族より地域の方の参加が多い。面会者の足も遠のいている。	新ユニットも開設され、家族の面会を待ち望む入居者の為にもさらなる呼びかけをしていただき、家族の意見等を引き出せるよう工夫をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにスタッフがほぼ全員参加させることにし、そこでスタッフに意見や提案など出来る機会を設けている、また普段からも思っていることがあれば送りノートに記入していただきその都度検討している。	若い職員が多く、協力しあい職員一人ひとりが責任を持ち管理者を支えている。余暇活動の活性化、看護師の配置、勤務のシフトについて改善し働きやすい職場づくりをしている。職員の外部研修等の機会も望みたい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度できちんとした評価を行いスタッフのやる気などを損なわないように留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修等には、スタッフを派遣し、研修に参加したスタッフはカンファレンスで他のスタッフに報告し情報を共有し、トレーニングしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し他事業所とネットワークを組み定期的に集まって情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中から、スタッフが傾聴する気持ちを持ち、受容し、共感する姿勢を意識してケアを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークに段階から、きちんと傾聴し、何が背景にあるのかをきちんと把握することを意識して行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、各種サービスの検討や担当ケアマネージャー、各種関係機関への連携を行い、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵、利用者さんのライフストーリーや背景を尊重した関係をきずいている。調理や掃除など一緒に行い、共に生活している環境作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんとともに支えることを念頭に置き、家族の意見を聞いたり、話し合う機会を設け日々のかかわりに活かせるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの背景をきちんと把握することをスタッフ間で理解を深めている、またなじみの場所等はスタッフと一緒にいる(美容室など)	平均週1回の割合で元同僚、遠縁の方が訪れたり、昔馴染みの美容室、病院に出かけたり、又、入居前の隣人同士に出会ったり、共生型であり、新しく身障者の方と共に支え合う関係も築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から、関係性を把握し、さりげなく介入するなど利用者さん同士の関係性が円滑に送れるようケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、利用者さんや家族が希望される場合は、随時相談を受ける		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活歴からいきがいに繋がるもの等話し合い、また利用者さんの日常生活から見えてくるものなども見逃さないようにしている。本人がやりたいことがあるのであれば家族に対してよき代弁者になって話し合いを設けている	好みの食べ物や、こだわりの石鹸を持ち込み、ひとりで月2回自宅にタクシーで帰り、昼食を食べてくる等思いを引き出し対応をしている。職員の力量を鑑み、もう少し思いを引き出せる工夫ができると思われ期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴から張り合いを感じている仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中やかぞくからの情報の中から把握し活かせるように取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援、自立助長の視点で、出来ることと出来ないことをアセスメントや日々のかかわりの中で把握し、利用者のQOLの向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の目線に立ち、日頃からの関わりで本人と家族の意見を聴きスタッフ間で話し合いし、ケアマネージャーがケアマネジメントを行い、モニタリングを各担当で行ってチームで作成している	「情報シート151」をもとに計画書を作成し、重度者にはより具体的な目標をたて本人に自信を持たせたり、体調の変化時はその都度見直し、月1回モニタリングし評価し見直ししている。家族に送付し確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで、日々の過ごし方の様子や気づいたことをスタッフ間で出し合い情報の共有をはかっている日常における動きはその時間ごとに記録をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽予定にない行事や利用者さんのニーズが合った場合、無理のないような勤務編成を行い対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、ゴミ拾いや草刈り、側溝あげなどに参加している。地区の班長を行い、また地域の行事に参加することにより、身近な地域資源の把握にも努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前あった生活歴を崩さないよう本人の希望する医療機関を利用させていただいており、またかかりつけ医、医療機関とも良好であり、何でも話せるようになっており、またきちんと記録を取っている	月1回の嘱託医の往診があり、通院は家族の他に看護師も同行する。緊急時や専門は刈田病院と連携している。看護師が常駐し、夜間は法人の看護師がオンコール対応であり、医療体制加算をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年から、専属に看護師を配置し、毎日の利用者の方の体調を把握し、嘱託医、協力病院と連携しているため、状況によってスムーズな受診が行える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した場合基本的に1日一度面会するようにしている。付き添いが必要で家族が付き添えない場合もスタッフで対応することもある。医師とご家族の話し合いにスタッフも同席し、病状や隊員の見通しの確認、退院に向けた話し合いをさせてもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や症状が重度化した場合などにご家族との話し合いを設け、利用者やご家族の意向を確認している。終末期ケアはまだ行っていない	看取りの指針を作成し、家族に説明をし同意を得た。12月から常勤看護師を受け入れ、医療機関との連携も強化し体制を整えた。看取りの経験がなく不安もあるが、今後職員向けの研修を行い、入居者、家族の希望に添った支援をしていきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習を持っているスタッフがいて、定期的に応急救護の訓練を行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民参加型の避難訓練を実施し地域との連携、災害対策の見直しなども定期的に行っている。	避難訓練(夜間想定)地域住民参加で1回実施した。サイレンが遠くまで聞こえた。避難告知を広範囲にの反省点もあり、年内にもう1回予定している。定期的な防災設備点検、スプリンクラーは設置済みで備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した呼び方で読んでおり、ご本人の誇りやプライバシーを損ねない声掛けや、対応をしている、スピーチロックにならないよう定期的にカンファレンスでケアの質を上げるよう話す機会を設けている	その人らしさを尊重し、トイレの声掛けの工夫や入浴の際、出来るだけ同棲介助を心掛けたりタオル等で覆うなど配慮している。「さん」づけを基本とし、愛称、現職時の呼び方など、本人に聞いて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが日常生活の中で希望や意向がすぐ伝えられる雰囲気作りをスタッフが意識して行っており、またスタッフが利用者さんの話を傾聴して利用者さんの自己決定が出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活歴から張り合いを感じている仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中や家族の情報の中から把握し活かせるように取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり、その人らしい身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人が好む嗜好品を取り入れながら、栄養バランスも考え、一人ひとりにあった食事を提供している。また利用者さんと職員が一緒になって買物、準備や食事、片づけを行っている	法人の栄養士による献立で、食材の買い出し、準備、後片付けを入居者、職員と共に行い大きな掘りごたつを囲み職員も一緒に食べている。茶碗、汁椀、箸、コップは本人持参、副菜は古風な藍の皿に盛られていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分のトータル、食事量は毎日記録を残している。記録を見直し少ない場合はゼリーなど代替りのものを摂取していただいている。固い食材は食べやすいように調理し工夫している。個々にあわせ刻み食、とろみ食などを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、一人ひとりにあったケアを心がけ自尊心を傷つけないように見直し、磨きなおしを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どのようなときに排泄があるか個々のパターンを探ってそれにあわせて声掛けを行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、こまめに声掛けと排泄チェック票をつけ自立に向けた支援をしている。夜間体は、間接照明で定期的に様子を見、個々に応じた対応をしている。居室にトイレはなく、ポータブルは置いていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり排便の有無を確認し、排便がない場合は、水分や食物繊維を摂っていただくようにし、適度な運動を行っている。それでも排便が見られない場合は主治医、看護師に相談し下剤などを使っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今まであった生活リズムや個人の好みに合った入浴時間になるべく合わせ、毎日入浴できるように配慮している	ほぼ全員が毎日14時から17時に入浴している。希望に応じ夜間入浴も可能だが、身障の方が主である。入浴拒否者には、原因を探り、例えば排泄の失敗であればそれに応じた声掛けで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に、就寝時の様子などを聞き取り、安心して眠っていただけるように配慮している。夜間眠れない利用者は、日中の過ごし方を見直しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤って服薬しないように、薬ケースにそれぞれの薬が混ざらないようにしている。また服薬する際は、職員間で相互に確認し事故防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴で得意だったことや、いきがいなどを把握し日々の生活の中で活かせるよう工夫している。食事準備、洗濯たたみ、掃除、草むしり、音楽鑑賞など個別役割やいきがいのできている。また行事や買物に参加して気分転換もしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩したいという利用者や戸外での買い物役割としている利用者さんもいて、スタッフが見守り等を行っている。歩行が困難な場合は車イスや車を使って移動を行っている。	食材の買い出しにショッピングセンター、外食にガスト、梨狩りと出かけてはいるが全員で出かけることが少ないとしている。	環境の良い所での生活ではあるが、年間行事予定をたて、家族に呼び掛け、協力の下、できるだけ入居者皆様にで出かけるような楽しみの企画を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し、利用者が金銭を持っている方にもいる。管理が難しい方には、スタッフが管理させていただくなど、ご本人や利用者の希望に基づいた対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの居間に電話があり、好きなときに電話できるよう環境は整えている。希望時には、電話を回し利用者に代わるようにしている。手紙については、職員が支援しながら手紙のやり取りがスムーズに行えるように対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本調の木造で出来た、とても優しいつくりになっており、少し高台な広縁からは、春は桜、夏は花火、秋は月、冬は降り積る雪が見ることが出来る。エアコン、床暖房完備で、温度差の刺激も少なく大変過ごしやすい空間である。	広々とした日本家屋で建物内の引き戸は障子を思わせる作りで、居間は畳敷きで中央に大きなこたつを囲み日頃入居者はくつろいでいる。自然な温、湿度管理の下、広縁には見えやすく時計をかけ、大きな窓から見える四季を眺めながら落ち着いた生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には昔ながらの掘りごたつ、広縁にはソファを設置し、利用者さん同士集まって談笑するスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライバシーを大切にしながら、心地よく安心して過ごせるような配慮をしており、またなじみのものを持ってきてもらうよう家族に働きかけを行っている	居室には冷蔵庫、テレビ、お位牌、馴染みの夜具を持ち込み、ベット、布団敷きと思い思いの部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内、トイレに手すりを設置する、床面をバリアフリーにする改築を行っている。廊下には手すりを設け、歩くのが不安定な方でも安心して歩行できるよう努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470600248		
法人名	社会福祉法人 白石陽光園		
事業所名	共生型グループホーム ながさか	ユニット名	やまほたるの家
所在地	宮城県白石市福岡長袋字永坂1		
自己評価作成日	平成22年10月	日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共生型グループホームということもあり、高齢者だけではなく年齢の若い方も利用しているため、世代の違った交流があり、高齢者の方が父母と言う役割が自然に出てきている。又地域住民の方々がグループホームという小さな施設ではなく、一般の家だと認識してもらおうようになってきており地域行事の参加や、逆にホームの行事に参加してもらい地域住民の理解に努めている。最後に認知症高齢者の方が日々の生活の中で役割を見つけて、いきがいにつなげることができるホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年11月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蛸が住む町に構えたホーム「やまほたる」と今年6月に開設した「かわほたる」2ユニットは共生型グループホームで年齢層に幅があり、お互い入居者同志が支えあい生活している。入居者のこれまでの生活様式に限りなく近づけゆったりとした木造作りで利用料も安く設定されていることが特徴である。地域との交流も定着し、目標達成計画に掲げた避難訓練は地域住民の協力で実施することができ、看取りに関する準備も進められていた。職員の意見が反映され、楽しく働きやすい職場なのでより良いサービスに心掛けて入居者の思いを引き出し、その人らしい生きがいとなる支援をしていきたいと満面の笑顔で職員は話していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム ながさか)「ユニット名やまほたるの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ながさかは年をとっても、障害があっても、住み慣れた地域ですみ続けていきたいという思いを大切にするという理念を持っており、実践でもこの理念が根底にあることを意識しスタッフがケアしている。	外部評価を期に理念を振り返り「その人らしい生きがいを大切に」人なりを考えるよう会議でも話し合いを持ち、入居者一人ひとりの状況に応じた支援を心掛け、職員の意識統一を図り支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は地区の班長を行い地域との交流を深めている、また自治会や町内会に参加しており、春は春祭り、夏は盆踊りなどに参加し、ラジオ体操などもグループホームの敷地内で行っており、地域との交流に力を注いでいる。	広い敷地を町内に開放し、子供会のラジオ体操、学校帰りに立ち寄り、夏祭りの会場、空建物を町内会の会議等に提供している。隣近所の連携も良く協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から防災訓練を地域の方々に参加していただき、一緒に訓練することにより地域の方々から利用者さんの理解ができるよう努めた、また夏に納涼会開催し認知症高齢者の方の理解を深めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、参加メンバーから質問などの聞きやすい雰囲気作りに努め、評価機関からの結果を行っており、去年は3回しか出来なかった、今年6回運営推進委員会を行うよう努めている(11月までには4回行っている)	2ヶ月に1回開催し、行政はその都度参加、他に町内会長、民生委員、地域住民、家族代表等がメンバーである。避難訓練にまつわる話や、祭りの在り方等、双方向的に活発に意見が出され、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員入っていただき理解と支援をいただいている、またこちら側で困ったり相談がある場合はすぐに相談できるように協力関係は築けている。また地域ケア会議に委員として参加し連携をとっている	市主催の地域ケア会議があり、条例改正、困難ケースの事例等の情報を得、市との連携も取れている。認知症ケアについて、地区に充分理解されていない事もあり、地区に向けた研修を検討し、取り組んで頂きたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中のカギの施錠はしていない、利用者さんが一人で外へ出てもその本人の傾向をつかんで対応している、近隣にももしも見かけたら連絡がもらえるようにしてある。拘束における弊害についてはスタッフ全員に理解させていくよう努めていく	主旨を理解し、日中は施錠していない。共生型であり、重度の方が入所した際ベット柵対応であったが、職員間で話し合い、見守りを徹底し廃止する等職員の意識も高まっている。散歩する入居者の為、地域にも協力を呼び掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待防止の話をOJTのように指導し、防止の徹底に心がけている。また身体高速についても、それによる弊害についてはスタッフ全員に理解していくよう努めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等があれば積極的にスタッフを参加させており、また管理者自身がカンファレンスで説明している、これからもっと力をいれていくことにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は運営規定、入居契約書、重要事項説明書を書面でみて説明してもらいながら確認し納得していただくようにしている。また利用者、家族の疑問・質問に対しても真摯に対応し理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をもうけ、訪問時には話を聞く等して意見・要望を聞いている、それをすぐにカンファレンスにかけスタッフと協議し対応している。しかし、不満や苦情は言い難い部分もあり把握しきれていない可能性もある	面会時に呼びとめて日常の様子を話す等話しやすい環境づくりや行事参加の呼びかけをしているが、家族より地域の方の参加が多い。面会者の足も遠のいている。	新ユニットも開設され、家族の面会を待ち望む入居者の為にもさらなる呼びかけをしていただき、家族の意見等を引き出せるよう工夫をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにスタッフがほぼ全員参加させることにし、そこでスタッフに意見や提案など出来る機会を設けている、また普段からも思っていることがあれば送りノートに記入していただきその都度検討している。	若い職員が多く、協力しあい職員一人ひとりが責任を持ち管理者を支えている。余暇活動の活性化、看護師の配置、勤務のシフトについて改善し働きやすい職場づくりをしている。職員の外部研修等の機会も望みたい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度できちんとした評価を行いスタッフのやる気などを損なわないように留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修等には、スタッフを派遣し、研修に参加したスタッフはカンファレンスで他のスタッフに報告し情報を共有し、トレーニングしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し他事業所とネットワークを組み定期的に集まって情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中から、スタッフが傾聴する気持ちを持ち、受容し、共感する姿勢を意識してケアを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークに段階から、きちんと傾聴し、何が背景にあるのかをきちんと把握することを意識して行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、各種サービスの検討や担当ケアマネージャー、各種関係機関への連携を行い、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵、利用者さんのライフストーリーや背景を尊重した関係をきずいている。調理や掃除など一緒に行い、共に生活している環境作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんとともに支えることを念頭に置き、家族の意見を聞いたり、話し合う機会を設け日々のかかわりに活かせるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの背景をきちんと把握することをスタッフ間で理解を深めている、またなじみの場所等はスタッフと一緒にいる(美容室など)	平均週1回の割合で元同僚、遠縁の方が訪れたり、昔馴染みの美容室、病院に出かけたり、又、入居前の隣人同士に出会ったり、共生型であり、新しく身障者の方と共に支え合う関係も築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から、関係性を把握し、さりげなく介入するなど利用者さん同士の関係性が円滑に送れるようケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、利用者さんや家族が希望される場合は、随時相談を受ける		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活歴からいきがいに繋がるもの等話し合い、また利用者さんの日常生活から出てくるものなども見逃さないようにしている。本人がやりたいことがあるのであれば家族に対してよき代弁者になって話し合いを設けている	好みの食べ物や、こだわりの石鹸を持ち込み、ひとりで月2回自宅にタクシーで帰り、昼食を食べてくる等思いを引き出し対応をしている。職員の力量を鑑み、もう少し思いを引き出せる工夫ができると思われ期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴から張り合いを感じている仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中やかぞくからの情報の中から把握し活かせるように取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援、自立助長の視点で、出来ることと出来ないことをアセスメントや日々のかかわりの中で把握し、利用者のQOLの向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の目線に立ち、日頃からの関わりで本人と家族の意見を聴きスタッフ間で話し合いし、ケアマネージャーがケアマネジメントを行い、モニタリングを各担当で行ってチームで作成している	「情報シート151」をもとに計画書を作成し、重度者にはより具体的な目標をたて本人に自信を持たせたり、体調の変化時はその都度見直し、月1回モニタリングし評価し見直している。家族に送付し確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで、日々の過ごし方の様子や気づいたことをスタッフ間で出し合い情報の共有をはかっている日常における動きはその時間ごとに記録をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽予定にない行事や利用者さんのニーズが合った場合、無理のないような勤務編成を行い対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、ゴミ拾いや草刈り、側溝あげなどに参加している。地区の班長を行い、また地域の行事に参加することにより、身近な地域資源の把握にも努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前あった生活歴を崩さないよう本人の希望する医療機関を利用させていただいている、またかかりつけ医、医療機関とも良好であり、何でも話せるようになっており、またきちんと記録を取っている	月1回の嘱託医の往診があり、通院は家族の他に看護師も同行する。緊急時や専門は刈田病院と連携している。看護師が常駐し、夜間は法人の看護師がオンコール対応であり、医療体制加算をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年から、専属に看護師を配置し、毎日の利用者の方の体調を把握し、嘱託医、協力病院と連携しているため、状況によってスムーズな受診が行える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した場合基本的に1日一度面会するようにしている。付き添いが必要で家族が付き添えない場合もスタッフで対応することもある。医師とご家族の話し合いにスタッフも同席し、病状や隊員の見通しの確認、退院に向けた話し合いをさせてもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や症状が重度化した場合などにご家族との話し合いを設け、利用者やご家族の意向を確認している。終末期ケアはまだ行っていない	看取りの指針を作成し、家族に説明をし同意を得た。12月から常勤看護師を受け入れ、医療機関との連携も強化し体制を整えた。看取りの経験がなく不安もあるが、今後職員向けの研修を行い、入居者、家族の希望に添った支援をしていきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習を持っているスタッフがいて、定期的に応急救護の訓練を行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民参加型の避難訓練を実施し地域との連携、災害対策の見直しなども定期的に行っている。	避難訓練(夜間想定)地域住民参加で1回実施した。サイレンが遠くまで聞こえた。避難告知を広範囲にの反省点もあり、年内にもう1回予定している。定期的な防災設備点検、スプリンクラーは設置済みで備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した呼び方で読んでおり、ご本人の誇りやプライバシーを損ねない声掛けや、対応をしている、スピーチロックにならないよう定期的にカンファレンスでケアの質を上げるよう話す機会を設けている	その人らしさを尊重し、トイレの声掛けの工夫や入浴の際、出来るだけ同棲介助を心掛けたりタオル等で覆うなど配慮している。「さん」づけを基本とし、愛称、現職時の呼び方など、本人に聞いて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが日常生活の中で希望や意向がすぐ伝えられる雰囲気作りをスタッフが意識して行っており、またスタッフが利用者さんの話を傾聴して利用者さんの自己決定が出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活歴から張り合いを感じている仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中や家族の情報の中から把握し活かせるように取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり、その人らしい身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人が好む嗜好品を取り入れながら、栄養バランスも考え、一人ひとりにあった食事を提供している。また利用者さんと職員が一緒になって買物、準備や食事、片づけを行っている	法人の栄養士による献立で、食材の買い出し、準備、後片付けを入居者、職員と共に行い大きな掘りごたつを囲み職員も一緒に食べている。茶碗、汁椀、箸、コップは本人持参、副菜は古風な藍の皿に盛られていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分のトータル、食事量は毎日記録を残している。記録を見直し少ない場合はゼリーなど代替りのものを摂取していただいている。固い食材は食べやすいように調理し工夫している。個々にあわせ刻み食、とろみ食などを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、一人ひとりにあったケアを心がけ自尊心を傷つけないように見直し、磨きなおしを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どのようなときに排泄があるか個々のパターンを探ってそれにあわせて声掛けを行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、こまめに声掛けと排泄チェック票をつけ自立に向けた支援をしている。夜間体は、間接照明で定期的に様子を見、個々に応じた対応をしている。居室にトイレはなく、ポータブルは置いていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり排便の有無を確認し、排便がない場合は、水分や食物繊維を摂っていただくようにし、適度な運動を行っている。それでも排便が見られない場合は主治医、看護師に相談し下剤などを使っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今まであった生活リズムや個人の好みに合った入浴時間になるべく合わせ、毎日入浴できるように配慮している	ほぼ全員が毎日14時から17時に入浴している。希望に応じ夜間入浴も可能だが、身障の方が主である。入浴拒否者には、原因を探り、例えば排泄の失敗であればそれに応じた声掛けで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に、就寝時の様子などを聞き取り、安心して眠っていただけるように配慮している。夜間眠れない利用者は、日中の過ごし方を見直しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤って服薬しないように、薬ケースにそれぞれの薬が混ざらないようにしている。また服薬する際は、職員間で相互に確認し事故防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴で得意だったことや、いきがいなどを把握し日々の生活の中で活かせるよう工夫している。食事準備、洗濯たたみ、掃除、草むしり、音楽鑑賞など個別役割やいきがいできている。また行事や買物に参加して気分転換もしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩したいという利用者や戸外での作業(草むしりなど)を役割としている利用者さんもいて、スタッフが見守り等を行っている、歩行が困難な場合は車イスや車を使って移動を行っている。	食材の買い出しにショッピングセンター、外食にガスト、梨狩りと出かけてはいるが全員で出かけることが少ないとしている。	環境の良い所での生活ではあるが、年間行事予定をたて、家族に呼び掛け、協力の下、できるだけ入居者皆様にかけられるような楽しみの企画を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し、利用者が金銭を持っている方もいる。管理が難しい方には、スタッフが管理させていただくなど、ご本人や利用者の希望に基づいた対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの居間に電話があり、好きなときに電話できるような環境は整えている。希望時には、電話を回し利用者に代わるようにしている。手紙については、職員が支援しながら手紙のやり取りがスムーズに行えるように対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本特有の広縁に優しい日差しが差し込み、そこから見える庭は四季折々の表情をもたらしてくれる。風通し良く、木の温もりがある。除湿加湿とも、管理しやすく、スタッフも落ち着いた雰囲気を持てるよう配慮している	広々とした日本家屋で建物内の引き戸は障子を思わせる作りで、居間は畳敷きで中央に大きなこたつを囲み日頃入居者はくつろいでいる。自然な温、湿度管理の下、広縁には見えやすく時計をかけ、大きな窓から見える四季を眺めながら落ち着いた生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には昔ながらの掘りごたつ、広縁にはソファを設置し、利用者さん同士集まって談笑するスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライバシーを大切にしながら、心地よく安心して過ごせるような配慮をしており、またなじみのものを持ってきてもらうよう家族に働きかけを行っている	居室には冷蔵庫、テレビ、お位牌、馴染みの夜具を持ち込み、ベット、布団敷きと思い思いの部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレに手すりを設置する、床面をバリアフリーにする改築を行っている。廊下には手すりを設け、歩くのが不安定な方でも安心して歩行できるよう努めている		